

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	校外実習
科目基礎情報					
科目番号	14321		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実習		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	機械工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	特に指定しない				
担当教員	兼重 明宏, 林 伸和, 清水 利弘, 鬼頭 俊介, 若澤 靖記, 小谷 明, 田中 淑晴, 上木 諭, 中村 裕紀, 浅井 一仁, 大原 雄児				
到達目標					
(ア)実習開始や終了等の学校への連絡および正当な理由を欠く遅刻欠勤がないこと。 (イ)実習テーマを、社会の中での位置づけと技術的側面の両面から理解する。 (ウ)実習指導者の指示に従って安全に業務を行うことができる。 (エ)実習内容と成果を要領よく文章でまとめることができる。 (オ)実習を通して気がついた点、反省すべき点を指摘することができる。 (カ)実習内容、自己の習得した事柄を、写真や図表などの視聴覚機器を用いて説明することができる。 (キ)発表会での質問に対して適切な説明を行うことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達の到達レベルの目安(可)		
評価項目(ア)	実習開始や終了等の学校への連絡および正当な理由を欠く遅刻欠勤がないこと。	実習開始や終了等の学校への連絡および正当な理由を欠く遅刻欠勤がないこと。	実習開始や終了等の学校への連絡および正当な理由を欠く遅刻欠勤があった。		
評価項目(イ)	実習テーマを、社会の中での位置づけと技術的側面の両面からの確に理解し、能動的に取り組んだ。	実習テーマを、社会の中での位置づけと技術的側面の両面から理解する。	実習テーマを、社会の中での位置づけと技術的側面の両面から理解していない。		
評価項目(ウ)	実習指導者の指示に従って安全に業務を行うことができる。	実習指導者の指示に従って安全に業務を行うことができる。	実習指導者の指示に従って安全に業務を行うことができない。		
評価項目(エ)	実習内容と成果を的確に文章でまとめることができる。	実習内容と成果を要領よく文章でまとめることができる。	実習内容と成果を要領よく文章でまとめることができない。		
評価項目(オ)	実習を通して気がついた点、反省すべき点を能動的にまとめ、指摘することができる。	実習を通して気がついた点、反省すべき点を指摘することができる。	実習を通して気がついた点、反省すべき点を指摘することができない。		
評価項目(カ)	実習内容、自己の習得した事柄を、写真や図表などの視聴覚機器を用いて与えられた時間で的確に説明することができる。	実習内容、自己の習得した事柄を、写真や図表などの視聴覚機器を用いて説明することができる。	実習内容、自己の習得した事柄を、写真や図表などの視聴覚機器を用いて説明することができない。		
評価項目(キ)	発表会での質問に対して質問の内容を理解した上で、適切な説明を行うことができる。	発表会での質問に対して適切な説明を行うことができる。	発表会での質問に対して適切な説明を行うことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	機械工学関連の一般企業における職場体験や、大学の研究室での先進的な研究体験を通じて、社会の中や最新の研究環境における技術者のあり方を学ぶ。こうした実習の教育効果として、教室では学ぶ機会の少ないコストの視点、理論の製品への実際的適用ならびに実作業を通して理解される理論の技術への応用などを挙げることができる。また体験して初めて工学の奥深さを知ることが可能となり、企業での職場体験では短期間であるが実習配属先で実際の業務に携わることにより、社会の一員としての自覚と責任を感じる場に身を置くことができる。				
授業の進め方・方法	事前ガイダンス、各企業による実習、報告書作成、報告会				
注意点	実習に関する安全、指導事項に従うこと				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	実習先における実習テーマの把握：社会の中での位置づけ、および技術的側面からの理解	実習テーマを、社会の中での位置づけと技術的側面の両面から理解する。	
		2週	実務作業：設計、研究、製造等	(ア)実習開始や終了等の学校への連絡および正当な理由を欠く遅刻欠勤がないこと。 (イ)実習テーマを、社会の中での位置づけと技術的側面の両面から理解する。 (ウ)実習指導者の指示に従って安全に業務を行うことができる。 (エ)実習内容と成果を要領よく文章でまとめることができる。 (オ)実習を通して気がついた点、反省すべき点を指摘することができる。	
		3週	実務作業：設計、研究、製造等		
		4週	実務作業：設計、研究、製造等		
		5週	実務作業：設計、研究、製造等		
		6週	実務作業：設計、研究、製造等		
		7週	実務作業：設計、研究、製造等		
		8週	実務作業：設計、研究、製造等		
	2ndQ	9週	実務作業：設計、研究、製造等		
		10週	実務作業：設計、研究、製造等		
		11週	実務作業：設計、研究、製造等		
		12週	実務作業：設計、研究、製造等		
		13週	実務作業：設計、研究、製造等		

		14週	実務作業：設計、研究、製造等	
		15週	実務作業：設計、研究、製造等	
		16週		
後期	3rdQ	1週	実務作業：設計、研究、製造等	
		2週	実務作業：設計、研究、製造等	
		3週	実務作業：設計、研究、製造等	
		4週	実務作業：設計、研究、製造等	
		5週	実務作業：設計、研究、製造等	
		6週	実務作業：設計、研究、製造等	
		7週	実務作業：設計、研究、製造等	
		8週	実務作業：設計、研究、製造等	
	4thQ	9週	実務作業：設計、研究、製造等	
		10週	実務作業：設計、研究、製造等	
		11週	実務作業：設計、研究、製造等	
		12週	実務作業：設計、研究、製造等	
		13週	実務作業：設計、研究、製造等	
		14週	実習報告書作成：実習内容、実習状況、実習から体得した事柄、反省点等の記述	(カ)実習内容、自己の習得した事柄を、写真や図表などの視聴覚機器を用いて説明することができる。 (キ)発表会での質問に対して適切な説明を行うことができる。
		15週	実習報告会でのプレゼンテーション；上記(1)～(3)の内容をまとめ、限られた時間内で視聴覚機材を用いて報告を行う。	(カ)実習内容、自己の習得した事柄を、写真や図表などの視聴覚機器を用いて説明することができる。 (キ)発表会での質問に対して適切な説明を行うことができる。
16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		実習報告書	実習報告会発表	指導者評価	合計
総合評価割合		30	30	40	100
専門的能力		30	30	40	100